

令和6年度 新潟大学 経済科学部

総 合 型 選 抜

試 験 問 題

【科 目】 小論文

【時 間】 90分

- 【注 意】
- 1 この問題冊子は、試験開始の合図があるまで開かないでください。
 - 2 問題用紙は1ページあります。
落丁・乱丁・印刷不鮮明の箇所などがあった場合は、監督者に申し出てください。
 - 3 解答用紙は1枚あります。
解答用紙の指定箇所に、受験番号を記入してください。
 - 4 問題の解答は、解答用紙に記入してください。
解答欄は、裏面にもあります。
 - 5 下書き用紙は2枚配付されます。
下書き用紙に解答を記入しても無効です。
 - 6 試験終了後、この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

白 紙

令和6年度 新潟大学 経済科学部

総合型選抜
試験問題

小論文

近年、日本では、在留外国人が増加している(注)。2022年末の在留外国人数は307万5,213人と過去最高を更新した。1990年は107万5,317人であり、およそ30年間で3倍程まで増加した。外国人の国籍は、アジア諸国が多い傾向があるが、全体では194カ国の国や地域にのぼり多様である。居住する地域は、大都市圏に集中する傾向がみられるが、新潟県にも2022年末の時点で1万9,107人もの在留外国人が生活している。滞在する理由は様々で、日本の文化が好きだからという社会・文化的な理由や、日本で自分のスキルやキャリアを高め、より豊かな生活を送りたいという経済的な理由もある。特に、日本で働く在留外国人は急増している。日本は人口減少が進み、政府や企業は労働力確保のために外国人材に期待し、積極的な受け入れを進めていることも影響している。今後もその数は増加することが見込まれる。

在留外国人は、地域の生活者でもある。日本とは異なる宗教、文化や生活習慣を持ち、異なる言語を使用する外国人が、中長期的に日本の地域で生活し、地域の住民として共生していく上では様々な課題が生じる。それに対して、外国人本人だけでなく、彼らを受け入れる地域の住民、企業、地方自治体といった各主体も課題の解決に向けて取り組むことが必要となる。

そこで、日本で中長期的に生活する外国人を受け入れる地域は、彼らと共に生きていくうえで、どのような取り組みが求められるだろうか。あなたが考える、在留外国人と共生する地域の未来像を示しながら、共生していくうえで直面する課題とは何か、地域の住民、企業、地方自治体といった主体がその課題を解決するためにどのように取り組めばよいかを800字以内で述べなさい。

(注)

在留外国人とは、中長期在留者及び特別永住者と定義され、中長期在留者とは、出入国管理及び難民認定法上の在留資格をもって我が国に在留する外国人のうち、主に3カ月を超えて日本に在留する外国人のことを指す。

(参考資料)

厚生労働省ウェブサイト「『外国人雇用状況』の届出状況まとめ(令和4年10月末現在)」

出入国在留管理庁ウェブサイト「在留外国人統計(2022年12月末)」

出入国在留管理庁ウェブサイト「在留外国人に対する基礎調査(令和3年度)調査結果報告書」